

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



Rotary International District 2780
2024 - 2025

2024-2025年度ガバナー 佐々木 辰郎

RID2780地区テーマ

ロータリーのマジックを行動で示そう!



(写真は伊勢原市観光協会より)

伊勢原市の象徴である自然あふれる大山です。大山は、標高1252メートルで神奈川県中央部にあり、丹沢大山国定公園の一角に位置しています。江戸時代には、大山に登ってお参りする「大山詣り」が庶民の間で盛んに行われました。伊勢原RC・伊勢原中央RC・伊勢原平成RCで大山クリーンキャンペーンも実施し、今ではだいぶゴミが減少しました。

クラブ会長・幹事の皆様、 そしてクラブ会員の皆様へ

国際ロータリー第2780地区
2024～25年度ガバナー

佐々木 辰郎

(大和田園RC)



『平和構築と紛争予防月間によせて』

今、まさに平和構築と紛争予防について、我々ロータリアンは真摯に考えなければいけない時期ではないかと思えます。

世界の大国と言われたアメリカとロシアが、一方では新しい国のトップたる大統領が鎖国宣言のような発言を繰り返し、他国に対し高い関税を課し、自国のみの利益を追求しようとしています。

また一方の長は隣国に対し一方的に侵略を続け、力で自国領土を拡大しつつある状況です。

そして我々の隣国である大国においては経済対策の行き詰まりより東南アジアに対する領土拡大や自国経済政策の不安の解消に躍起になっている様な状況と思えます。

我々ロータリアンは直接政治的な活動及び言動は控えるべきと教わってきました。しかし月間においては各自が少し考えてみるのはロータリアンの常識の一部と言えましょう！

我々ロータリアンは多くの平和に対する活動を行っています。歴史的にロータリーの平和に対する活動を少し考えてみましょう！

第二次世界大戦の最中、ロータリー会員は安定した平和な世界の実現に向けた方法を模索していました。1940年に開催された国際大会の出席者らは、「ロータリーは世界的紛争の渦中にある」という声明を採択し、「誓いの言葉が持つ自由、正義、真実、尊厳、そして人権の尊重がない世界では、ロータリーは存在することはおろか、その理想を広めることすらできない」と訴えました。

ロータリー創設者のポール・ハリスは、国際理解と平和とのつながりを理解していた一人でした。1921年の国際大会に寄せたメッセージで、ハリスは次のようにつぶやいています。「一つの国の国民が他国の人を理解すればするほど、衝突の可能性は低くなる。だからこそ、ロータリーは各国の人びとがつながり合い、互いに友情を築くことを呼びかけている」このようにポール・ハリスは戦前にすでに各国の平和に対するしっかりとした考えを示していました。

1947年のハリスの逝去後、(献花の代わりに寄付を望んだハリスの遺志を受けて)ロータリー財団への寄付がロータリー本部に殺到しました。これを受け、新設された奨学金プログラムへの資金がポール・ハリス記念基金から充てられることになりました。

このプログラムは「高等教育のためのロータリー財団フェロシップ」と呼ばれ、初年度には18名

の奨学生が支援を受けたされています。この奨学金制度は時を経て「国際親善奨学金」として知られるようになり、大学院レベルの奨学金が地区補助金やグローバル補助金に組み込まれ2013年まで続きました。

また、紛争の原因となる問題や、平和推進活動について認識を高めるため、ロータリーは3年間のパイロットプログラムとして平和フォーラムを創設しました。1988年にイリノイ州エバンストンで開催された初のフォーラムでは、ロータリーのリーダーや来賓らが「非政府団体と平和の追求」といったトピックについて意見を交しました。

1990年にはロータリー財団管理委員会がこのプログラムの間口を広げ、その名称をロータリー平和プログラムに改称しました。

それまでロータリー会員は平和の推進に資する大学の創設を度々提案してきましたが、これは実現不可能であると考えられていました。しかし、1990年代に入ると、ハリスの逝去50周年を機に、ロータリーのリーダーらはその構想に代わる案を模索し始め、考えついた結果、キャリアにおいて平和構築に携わっている人たちに、その分野の大学院に進むための奨学金を授与することでした。そして既存の大学が提供する定評のある平和関連課程で教育を受けてもらうというものでした。

こうして1999年、「ロータリー平和センター」の設立が承認され、2002年にはロータリー平和フェロー第一期生たちの教育課程がスタートしました。

ロータリー平和センターは世界各地の大学に設置され、地域社会や世界を舞台に平和を推進するリーダーを養成しています。平和フェローたちはそこで紛争の原因について学び、人権や国際関係、国際保健衛生・開発といった分野における現実的な問題に対し、革新的な解決策を生み出す実用的なスキルを身につけています。

今日のロータリーは、世界中の地域社会で持続可能かつ測定可能な活動を通じて、平和を構築・維持できる環境を実現することを目指しています。平和構築は現在も、人道支援団体としてのロータリーの使命の礎となっています。

平和な世界を築くという目標に向けて、あなたもインパクトを生み出すことが可能と考えます。

この期間に日々のロータリー活動の中で是非、平和と紛争予防について各人が考え、そして各クラブにおいてフォーラムを開催して頂くようお願い致します。



『地区ホームページサミット開催』

地区ホームページ委員会

委員長 義 澤 彰

(相模原西RC)



去る12月7日(土)に第一相澤ビルにおきまして、地区ホームページ委員会初の試みである「地区ホームページサミット」を開催致しました。

本年度は佐々木ガバナーの方針の元、各地区委員会が各クラブの担当委員の方を地区へお呼びして、セミナー及び講習などを行うとの事で我がホームページ委員会も「サミット」と名付けて、初めて開催する運びとなりました。

地区のホームページはリニューアルしてから数年が経ちまして皆様も見慣れてきた事と思いますが、委員会内でまだまだ浸透及び活用が出来ていないのではないかと意見が出て、皆様が地区のホームページをどのように活用しているのかをアンケートを取ってみては良いのではとの事となり、事前アンケートを各クラブへお送りさせていただきました。約半数のクラブから回答を頂きまして、お忙しい中ご回答ありがとうございました。アンケートの回答は、おおむね地区ホームページの認識はあったものの、中身の詳しいところまでは知らないと言う事が分かり、とても良い資料となりました。これを踏まえて、地区ホームページサミットは、まずは地区ホームページとはどのようなものでどのような事が分かるのかを、事細かく説明することが大事なのではないかと言う事となりこれを基本として開催致しました。

12月7日(土)16:00から始まり、安江副委員長の司会のもと、佐々木ガバナーに今回のサミット開催についての思いをご挨拶頂き、続いて委員長の私が挨拶させていただきました。そのあとはプロジェクター越しに、委員歴の長い私が地区ホームページについてレクチャーさせていただきました。

まずは、検索エンジンによる地区ホームページの検索の仕方から始まり、地区ホームページが一般向けと会員向けの2種類あることを説明させていただきました。一般向けのホームページがどのようなものかを一通り説明させていただいた後に会員向けのホームページ、会員ポータルサイトについて詳細に説明させていただきました。会員ポータルサイトはロータリアンがロータリー活動をする際に必要不可

欠な情報、それについての各種資料がダウンロード出来る事について説明いたしました。また、多くのリンク集を備えており、ロータリーの友、米山記念奨学会、ロータリー文庫、そしてMy Rotaryへのアクセスも出来る事を説明いたしました。特にMy Rotaryへのアクセスは、登録率UPキャンペーン中と言う事や登録することによって更にロータリーの情報が得られることを詳細に説明させていただきました。更に重要なこと、地区ホームページは一般向け・会員向けどちらからでも「ハラスメント窓口」にアクセス出来る事も詳しく説明させていただきました。そして今回のサミットのもう一つの目的、それはクラブ活動報告の活用です。各クラブが行っている奉仕活動を広く一般の方、そして多くのロータリアンに向けて発信していただきたいと思い、投稿方法を詳しく説明させていただきました。

一通り説明が終わった後質疑応答に移り、参加者からホームページの管理体制や更新頻度について質問があり、各クラブの現状と課題について意見交換を実施いたしました。

最後に、松下ガバナーエレクトからホームページの重要性について、そしていろいろなSNS等を活用して広く第2780地区の活動を発信して欲しい旨、このような地区のロータリアンの意見交換の場を次年度も設けていきたい旨のお話をいただき終了となりました。

皆様には暮れのお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございました。



CONTENTS

ガバナーメッセージ	2
地区ホームページサミット開催	3
米山学友会主催 国際交流会	4

ローターアクト地区大会	5
新たな試み！クラブと地区、合同委員会	6
相模原橋本RC クラブ活動報告	7
第7グループ・クラブ紹介	8
新会員紹介 他	11

『米山学友主催 国際交流会』

地区米山委員会
委員長 齋藤 秀人
(横須賀RC)



米山学友主催の国際交流会12月7日(土)午後2時より二宮町民センターにおいて開催されました。JR東海道線二宮駅を下車し、小高い丘の上にセンターがあります。調理実習室と座敷部屋があり、格安にて借りれる施設のため、米山学友としても毎年利用しております。当日は奨学生25名、学友3名、各クラブロータリー20名、地区米山関係者8名の計56名の参加でありました。

各奨学生は、母国の料理を作るべく、事前に仕入れた食材を持ち込み、レシピなどは使わず母国家庭の味を手際よく作り始めました。合計8ヶ国の料理は、それぞれに国の懐かしい味を再現し、各ロータリアンが来館されるまでに手分けして調理を完成させました。

料理をふる舞う場所は1階の畳敷大広間、その片隅に料理をずらりと並べ、各奨学生は母国料理の説明を行いました。8ヶ国の内訳は、イ

ンドネシア・韓国・中国・台湾・モンゴル・インド・ベトナム・ネパール。

用意した料理はすべて完食され、各国の奨学生やロータリアンとのコミュニケーションが増し、達成感と一体感が芽生えました。米山奨学生は常に研究心や向上心を持って全力で取り組んでいます。今後とも米山奨学生の活動をよろしくお願いいたします。





『ローターアクト地区大会』

地区 R A 代表 榊 原 慧

(鎌倉RAC)

2024年12月8日、北鎌倉は建長寺にて「第36回ローターアクト地区大会（大会ターゲット：伝播～アクトの潮音～）」が開催されました。

今年は鎌倉RACが主催し、登録者は210名、当日は117名の参加者の方々にお越しいただきました。宗務本院 宗務総長の長尾宏道様より歓迎の辞を賜り、大会ターゲットの「潮音」の仏教的な繋がり説明も交えたご挨拶を頂きました。メインプログラムでは内務部長の松本隆行様に「禅からZENへ」をテーマに、何かを成し遂げようとする際の諦めない心と時流に合わせて変化することの重要性について学びました。お昼には幻董庵様のお弁当を頂き、ロータリーファミリーとして新しい活動のヒントとなる考え方についてディスカッションをし、参加者同士の仲を深め、最後に坐禅や境内散策を通じて開催地の空気や文化を肌で感じつつ閉会、アクターは3次会まで懇親しました。以下は地区代表の所感です。

R.ID2780の地区RA代表として、鎌倉RACの一員として、鎌倉学園IACのOBとして…様々な立場で臨んだ今大会においては一連の事業から、多様な学びを得ました。

思えば1年以上前から地区大会は始動し、年度を跨いで林宏樹鎌倉RAC会長年度となってから一層ギアチェンジして考えを巡らしました。林実行委員長は現役バリバリの社会人、その他メンバーは学生という運営体制を活かし、林実行委員長の社会人としての経験に基づく方針と判断、学生としての柔軟

な発想を元にして計画段階から順調に進み、予定会場の変更や時間割の変更等ハードからソフトまで凡ゆるものの変化の中で考え突き進みました。最終的には「The・鎌倉」な建長寺様において、長尾様の御挨拶、松本様の御卓話および坐禅、けんちん汁と和のお弁当、と歴代の地区大会にはおそらくないであろう、開催地の特性を活かした文化的な大会になったと考えております。これらは全て、ロータリーの輪から紡がれた縁で繋がったのであります。

特に今回はインターアクターや米山奨学生、および他地区ローターアクターにも多数参加していただきました。その点で地区アクターの努力と鎌倉の知名度も助け、今大会において地区RAのテーマにもある新たなロータリーの輪、奉仕の輪が紡がれ繋がったと強く思います。今大会がクラブや地区、ひいては我が国のローターアクトにその学び、精神を伝播させられたなら、その意味で良い潮音となったと考えます。

これらを達成できたのは、佐々木ガバナーをはじめとする地区ロータリアンの皆様のご理解、角井委員長をはじめとする地区RA委員会の皆様、そして準備初期段階より様々ご協力いただいた林雅巳会長をはじめとする鎌倉ロータリークラブの皆様のおかげ様であります。深く感謝申し上げ、結びといたします。

今後とも我々の活動を何卒お見守りいただければ幸いです。

お土産のオリジナル鳩サブレー、好評でした！



『新たな試み！クラブと地区、合同委員会』



地区公共イメージ委員会

委員長 **松 下 力**

(ふじさわ湘南RC)

2024-25年、佐々木辰郎ガバナー年度の新たな試みの一つとして、各クラブそれぞれの委員長と地区委員会との合同委員会開催が挙げられます。

本年度、地区人数が縮小となった状況下に於いても、今まで以上の委員会運営を実践する為に最適な方法とは何か…？

それなら地区の委員会にクラブ委員長を招集し、合同委員会を開催することで、「あるべき姿」へと突き進もうではないか!! それが佐々木辰郎ガバナーが掲げた新しい地区委員会の運営スタイルです。

そして我々、地区公共イメージ委員会も、2024年12月10日、第一相澤ビル8階にてクラブ公共イメージ委員長（またはクラブ会長・クラブ広報委員長）と地区公共イメージ委員会との合同委員会開催に至りました。

地区内より27クラブ、28名の皆様にご出席いただいた合同委員会では、

★「明日からの仕事にも役に立つ！ロータリーの公共イメージ向上活動を掘り下げよう！」をテーマに掲げ、

目的①：公共イメージ向上活動への気付き、発見！

目的②：参加者同士の意見交換を通じた情報共

有と連携！

目的③：合同委員会参加者全員（クラブと地区委員）の交流と親睦！（合同委員会終了後希望者約20名による懇親会を開催）

を目的に、参加者を4グループに分類し、3つのSTEP（グループ討議検討チャート）に基づき、60分間のグループ討議、テーブルミーティングを実施いたしました。

グループ討議後は、討議した内容をグループ毎に発表いただき、その後、グループ毎の発表内容と地区公共イメージ委員会が事前に検討したSTEP①～③の仮説をすり合わせる時間を設けることで、

*クラブと地区の共通認識事項は何か？

*クラブと地区の認識のズレ、相違点は何か？

*未知なる視点や考え方は何か？ 等々

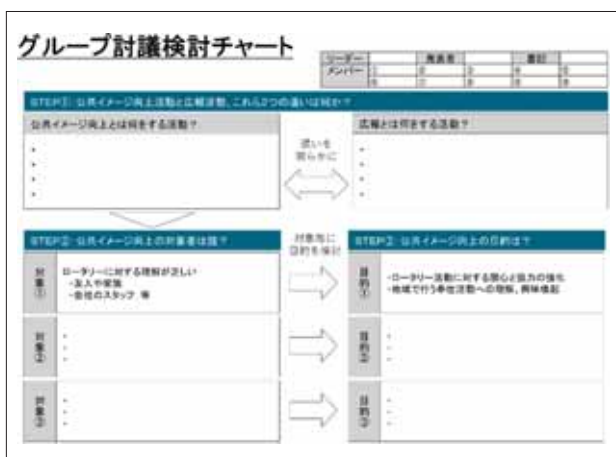
を浮き彫りにし、これからの好ましいクラブ運営の後押しを図ることにいたしました。

初の試みなる合同委員会を開催してみて感じたことは何か…。

地区セミナーでは、「話しをする側（地区の開催者）」と「話を聴く側（クラブからの参加者）」の「1対多」の関係になるのは仕方ないこと。

一方、合同委員会の様に、地区関係者とクラブ参加者が同じテーブルで議論を交わし、誰にも平等に発言機会があることで、開催者（地区）やクラブ参加者との間の見えない壁がなくなり、距離感を縮めることに繋がったのではないのでしょうか。

今回の合同委員会で、縁に結ばれ同じグループになったロータリアン達は、ロータリーソングの歌詞の様に、どこで会っても「やあ」と言い、見つけた時には「おい」と呼び合える。きっとその様な関係になったと思います。





『相模原橋本RC クラブ活動報告』

相模原橋本ロータリークラブ

2024-25年度会長 工藤 元

(相模原橋本RC)



当クラブでは、橋本周辺地域（広い意味では相模原市緑区）を「我がまち」として常に意識をしており、クラブの様々な活動も「橋本ならでは」をコンセプトとして、地域に対して「より高く、より深く、より広く」の心持ちで行っています。その中で、今年度、新たに実施した奉仕活動2つと、継続活動を1つご紹介させていただきます。

【さがみはらリニアフェスタ2024】

令和6年11月9日（土曜日）・10日（日曜日）、中央新幹線「神奈川県駅（仮称）」（緑区橋本2丁目1-18）工事現場にて、神奈川県・相模原市・東海旅客鉄道株式会社（JR東海）が共催する、「さがみはらリニアフェスタ」が開催されました。当クラブでは、『地域を支え 地域を磨き 思いを世界に』をキャッチフレーズとして同イベントに参加。9日（土曜日）には時速500kmで走行する超電導リニア新幹線のイベント（工事現場）に、時間にゆとりのあった昭和初期に津久井地域で活躍した代燃車「三太号」の展示を行いました。来場者の皆さまにその可愛らしい姿をご覧いただき、時代と共に変化していく地域や街の姿を感じて頂きました。

10日（日曜日）は、三太号の展示が叶わなかったため、令和7年8月に開催予定の橋本七夕まつり向けに「願い事短冊作り」のワークショップと抽選会を実施。リニアグッズ（山梨県のリニア実験センター売店で購入）と、有志会員よりご提供いただいた新幹線カレンダーを景品といたしました。また、2日間実施した組みも体験では、会員企業より「津久井の組みも」を、三太号カラー・リニアカラーの2色で特別にご用意いただき、多くの方に地域産業を体験いただきました。残念ながら、会場の都合によりポリオの募金活動は行えませんでした。ブランドリソースセンター等よりDLした動画をブースで放映し、地区より頂いたパンフレットを配布してポリオの根絶を呼びかけ、ロータリーの活動の一部をご紹介しました。

地下ステージ（掘削現場）で行われたプロジェクションマッピングには、シールドマシンをイメージした丸形のスクリーン（実際の工事現場）にロータリーのロゴマーク「誇りのシンボル」も映し出され、公共イメージの向上を図ることができました。

【生命のメッセージ展 in 橋本2024】

令和6年12月1日（日）、クラブの特別奉仕プロジェクトとして「生命のメッセージ展in橋本」を当クラブ主催、共催に公益社団法人神奈川被害者支援センター、相模原市と

相模原市教育委員会にも後援をいただき、ミウイ橋本6F インナーガーデンで開催しました。これまで被害者支援センターとの調整や寒川での「いのちの授業」の視察など、企画立案から約1年越しでの開催となりました。

いのちのメッセージ展では、犯罪や社会の不条理のもとに生命を断ち切られた犠牲者一人ひとりの生きた証の象徴として、等身大の人型と彼らの遺品の「靴」が展示されます。この人型には一人ひとりの素顔や遺された家族の綴ったメッセージが添えられており、命の大切さを伝える「メッセンジャー」と呼ばれています。

更には、被害者支援センターが警察と共に県内の中学校や高校で行っている「いのちの大切さを知る授業」（被害者・加害者にならないために、被害者になってしまったらどうするか）をコンパクトにまとめたエッセンス版の講演と、2000年に実際に発生した危険運転致死傷罪の事件をもとに被害者・加害者視点で描かれた映画「0からの風」の上映も行いました。

また、生命のメッセージ展を運営する特定非営利活動法人いのちのミュージアムの方々やメッセンジャーのご遺族など、多くの方にもボランティアとしてご参加をいただきました。被害者ご遺族のお気持ちやご苦労をお聞きして、胸が締め付けられる思いでした。

会場がJR橋本駅に隣接する商業施設であったこともあり、食事や買い物のほか、橋本図書館へご来館された方など幅広い年代の多くの方がお立ち寄りくださいました。涙を流しながらご覧いただいた方もおり、ひとりでも多くの地域の方に、メッセンジャーからの「いのちのメッセージ」が深く届いていれば幸いです。

【ソ・ユ・ホ（即・有志で・奉仕）活動】

2016年7月24日から始まったこの活動は、クラブ理事会を通さず、必要な時にクラブの有志会員が集まって行う小規模な奉仕活動です。毎月1回の活動を目표として行っており、2025年1月18日には86回目のソ・ユ・ホを実施しております。活動内容としては、我がまち橋本の玄関口でもあるJR橋本駅周辺の清掃活動が主となりますが、過去には駅周辺の落書き消し、ペディストリアンデッキのガム剥がしなども行っています。また、降雪後に万年雪（氷）の状態で残り、転倒する危険のあった歩道の除雪（除氷）など、その時に必要と思った活動も取り入れています。これからも、我がまち橋本の地域に根差したソ・ユ・ホの活動を続けていきたいと思っております。



リニアフェスタ

生命のメッセージ展

ソユホ

秦野ロータリークラブ

会長 郭 根 男

『日韓中学生の共同奉仕活動及び国際交流（研修）』

秦野ロータリークラブの主催で、秦野市役所と姉妹都市である韓国坡州(パジュ)市役所の協力の下、地区補助金事業として、2日間(2024年9月28日～29日)秦野市の中学生20名と韓国坡州(パジュ)市の中学生20名が共同奉仕活動及び国際交流(研修)を行いました。

秦野市を代表する商業一大イベントである「たばこ祭」の終了後、市長をはじめ、日韓の中学生40名と姉妹都市民間交流団体である「秦野市・坡州市友好協会」のメンバー、そして韓国坡州ロータリークラブ(姉妹クラブ)メンバーが共に、祭りのメイン会場である市役所広場や市内本町小学校グラウンドのクリーン奉仕活動を共同で行いました。そして秦野市茶道協会のご指導による茶道体験、中学生の大好物のカレーライス作りや両国のカオケのど自慢などの異文化国際交流も行い、成功裏に終了出来ました。

この日韓中学生共同プロジェクトは、秦野ロータリークラブと秦野市役所、そして秦野・坡州友好協会という民間団体の連携と協力の下で開催が出来、国際ロータリーのモットーである奉仕の重要性と社会における国際ロータリーの役割を果たすことが出来ました。さらに、国際ロータリーの公共イメージアップにも繋がり、行く行くは今年度RIの「ロータリーのマジック」、地区の「ロータリーのマジックを行動で示そう!」、秦野ロータリークラブの「エンジョイ、ロータリーマジック」というテーマに沿った素晴らしい地区補助金事業となりました。



伊勢原ロータリークラブ

会長 天 野 耕一郎

伊勢原ロータリークラブは毎週水曜日に例会を開催しています。今期の会長目標は会員増強8名でしたが、すでに5名の新会員が入会しています。会員数61名で平均年齢58歳(1月9日現在)ということもあり、例会は若いエネルギーに満ちたとてもフレンドリーな雰囲気です。例会の食事とても評判が良く、ゲストの方々もいつも満足して帰っていただいています。例会時に会員の誕生日には会長エレクトからの誕生日メッセージが送られているのが名物となっています。



昨年末のXマス例会には会員のお子さんたちが大勢集まり、会長扮するサンタからのプレゼントを興奮しながら受け取っていました。彼らにとってサプライズなマジックだったはずです。

クラブ活動の内容はSNS等で頻繁に発信しており、フォロワーの数も増えてきています。ぜひご覧ください。



クリスマス例会



通常例会

クラブ紹介

第7グループ

秦野中ロータリークラブ

会長 小 卷 慎 吾

秦野中ロータリークラブが実施している社会奉仕活動についてご紹介します。

- ヤマユリ育成** 県の花であるヤマユリを育成し15年以上が経過し、毎年7月に渋沢丘陵のハイキングコースを彩っています。今年度は一般参加型の鑑賞会を実施しました。
 - サツマイモ育成** 市内の保育園児や中学校生徒とともに苗を植え、秋に収穫します。収穫したサツマイモは秦野市民の日にて頒布し、寄付金はポリオ撲滅の募金としています。今年度からは秦野ロータリークラブ、秦野名水ロータリークラブの合同活動としています。
 - フィリピン・カダヤカン村での水道事業** 2018年に実施した水道事業をもとに、タンクを増設により近隣の地域にも水を供給する改善事業を今年度は秦野名水ロータリークラブ、現地のバギューロータリークラブと合同で実施しています。
- これらの活動は地域の皆さんに笑顔をもたらし、まさに「ロータリーのマジックの実践」といえるでしょう。今後も地域社会の発展を願い、さらなる奉仕活動に取り組んでまいります。



ヤマユリ育成



サツマイモ育成



フィリピン・カダヤカン村での水道事業

伊勢原中央ロータリークラブ

会長 一 見 智 則

私たち『伊勢原中央ロータリークラブ』は1978年4月26日にRIの認証を受け、今年度で47期目を迎えております。現在の会員数は13名と少数ながらも高い出席率と会員間の結束力の強さが特徴のクラブです。今年度は『バランスのとれた変化』をテーマに、地域社会への貢献とロータリークラブの理念の再確認を軸に活動しています。

地域のスポーツ及び文化の発展の貢献のため、長年に渡り伊勢原市少年野球学童部新人戦への支援、伊勢原市立図書館への書籍等の寄付を行っています。また、伊勢原市の道灌まつりにおいては毎年、「薬物乱用防止キャンペーンとポリオ撲滅運動」を行っており、このような奉仕活動を通して、市民の皆さんにロータリークラブについて少しでも知っていただくことができたらと思っています。クラブ自身の活動としてロータリークラブの理念の再確認を兼ね、米山梅吉記念館を訪問し米山の歴史について改めて認識を深めることができました。

今年度は、青少年交換派遣候補生のホストクラブとなったので、ロータリーの青少年奉仕についてもきちんと把握し、しっかりと送り出せるようにしたいと思います。

一年を通して親睦活動においては現在も年に2回一泊二日の親睦旅行を企画し、他にもクリスマス例会やゴルフコンペなどを開催し、他クラブの方にも参加を募り交流を深めています。今後もクラブの一体感を強め、新しい仲間を増やしながらか地域の皆さんに役に立つ活動を続けていければと思います。



米山梅吉記念館へ訪問



家族親睦クリスマス会



伊勢原市立図書館への寄付



伊勢原3RC合同キャンペーン

秦野名水ロータリークラブ

会長 大屋 富 茂

我が町「秦野市」は、本年1月1日市制施行70周年の節目を迎えました。1985年環境庁より「全国名水百選」に選定され、現在では日本一水のおいしい町として知られて居ります。

1987年「秦野名水ロータリークラブ」は35名のメンバーにより創立致しました。昨年10月17日創立日を記念し、「創立37周年記念例会」を佐々木ガバナー、田中ガバナー補佐、武拡大補佐をゲストとしてお迎えし実施させて頂きました。創立以来、地域社会への奉仕活動はもとより、海外に於ける奉仕活動は多岐に渡り、実践を共にした先達に思いをはせ、更なる未来に向け、クラブの発展を誓い合う例会となりました。

当クラブの特徴とも言える青少年への奉仕活動と併せ、外国コインの収集と日本ユニセフへの送金、「秦野中ロータリークラブ」との共同事業として補助金を利用してのフィリピンの山村への水の提供事業と、会員一丸となり奉仕活動を推進させて頂いて居ります。「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」クラブが地域社会、国際社会で行う奉仕活動が、やがて「ロータリーのマジック」を生む事を心に念じ実践して参りたいと存じます。



ポリオキャンペーン



創立37周年記念例会



外国コイン事業



保育園へ絵本贈呈

伊勢原平成ロータリークラブ

会長 宮 本 佳 昭

平成ロータリークラブは、昨年1月より例会場所を伊勢原大神宮の参集所に移し、神社の静寂な空間の中で心が清まる例会を実施しています。食事は、料亭を営む2人の会員が交互に仕出しを担当し、季節感あふれる料理を楽しんでいます。

スマイル活動では、会員の誕生日や結婚記念日、入会・創立記念日を祝い、会員の花屋から季節の花々を贈るといった心温まる習慣があります。また、四季楽（春夏秋冬の旅行会）や家族で楽しむ釣り同好会、新設のゴルフ同好会など、親睦を深める活動も盛んです。

名物会員として「ミスターロータリー」と称されるチャーター会員が在籍。ロータリーの知識が豊富で、どんな質問にも的確に答えてくれる頼れる存在です。彼が幽霊会員だった過去からロータリーに情熱を注ぐようになった背景には、「ロータリーマジック」が大きく影響しています。



少人数ながらも会員一人ひとりが魅力的で前向きな平成クラブは、退会者が出ない居心地の良さが特徴です。本年創立35周年を迎え、記念大会や過日開催されたスポGOMI伊勢原大会を含む記念事業を通じて、「ロータリーのマジックを行動で示そう！」というテーマを体現しながら、活動を益々充実させています。



お知らせ

「カルガリー国際大会」のご案内

「カルガリーハット」販売のご案内 (第2地域)

お揃いの「カルガリーハット」をかぶって、
TEAM JAPAN 大いに盛り上がりましょう！



ガバナー事務所まで申してください

新会員紹介 ①所属 ②入会日 ③職業分類 ④スポンサー



ふるかわ つよし
古川 剛士
①小田原
②2025. 01. 06
③ガス事業
④井上 三郎、
神戸 和男



やまざき まさひろ
山崎 真弘
①小田原北
②2025. 01. 08
③調剤薬局
④大川 耕作、
松下 弘樹



すぎもと たくや
杉本 卓也
①足柄
②2025. 01. 01
③自動車整備
④湯川 謙吾



たかい ともよし
高井 友良
①藤沢北西
②2024. 12. 05
③ハッピーライフ
④阿部 修之



つちや よしたか
土屋 善敬
①藤沢東
②2025. 01. 14
③公認会計士
④田中 繁



訃報 ご冥福をお祈り致します



飯田 久夫 (厚木中)
2024年12月26日逝去 (享年94歳)
ロータリー歴 34年
PHF5/米山功労者第7回



まなべ ふじまさ
眞鍋 藤正 (大和)
2025年1月1日逝去 (享年90歳)
1976年12月6日入会
1981~82年度 クラブ幹事
PHF5回/
米山功労者マルチプル7回

